

光栄の森

2021年11月 毎月1日発行 第159号
発行者 光栄プロテック 中川

11月に向けて

代表取締役 三田雅憲

寒さが日一日こたえるようになってきましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？

先日は、70代のご夫婦とお話する機会がありました。ご結婚されて50有余年、苦楽を共にされた方からのお話は、味わい深く人生の勉強になることが多くありました。古臭い、今の時代に合っていないと合理的なことばかり言うのではなく、生きる上での知恵を学んでほしく思うのです。ぜひ、皆さんも長年の方とお話をする機会を持ってほしく思いました。

今月は、世界のホンダを生んだ創業者の故 本田宗一郎さんのPHP研究所発行「やりたいことをやれ」の一節から皆さんと学びたいと思います。

<まず第一歩を>

人間が進歩するためには、まず第一歩を踏み出すことである。躊躇して立ち止まっていたのでは駄目である。なぜなら、そこにどんな障害があろうと足を踏み込んで初めて知れるからだ。失敗はその一歩の踏み込みだと思ふ。前進への足跡だと思ふ。わが国には「サルも木から落ちる」という言葉がある。慢心とか油断への戒めである。心の緩みだが、このための失敗には私は寛容の心を持ち合わさない。なぜと言えど人間に許される失敗は、進歩向上を目指すモーション（行動）が生んだものだけに限ると思ふからだ。しかし、私は猿が新しい木登り技術を学ぶためにある試みをして落ちるなら、これは尊い経験として奨励したい。

<若さと良識>

若さには特権がある。しかし、若いんだから何をやっても良いということはない。社会を維持するための法や秩序を守らなければならないことは当然だが、自分の自由が尊重されるためには、他人のそれを尊重することが必要である。権利を自覚して義務を果たすことが、民主主義の基本なのだ。つまり、どんな行動にも責任が伴うということである。過ちの理由を絶対に他に求めてはダメだ。どんな場合でも自分の行動は自分の意志で決定する。こうした基本的な考えを身につけたところに、行動の自由の限界を悟る良識が生まれるのである。良識の伴わない「若さ」は時として野獣と牙にもなりかねない。

<人間的評価が第一>

人間、短期間をポンと切ったときには恵まれないこともあるかもしれないが、長期に人生という長い目で見た時には、本人も努力し苦勞していれば人の気持ちも分かるし、人間的にも評価してもらえるものだと思うんです。学問や仕事がいくら出来ようと、人間的に評価が悪かったらダメですよ。だから僕はすべて人間評価から始まり、人間評価において終わると思う。仕事も大事だけど、人間関係があつてこそ仕事が成り立つんですからね。どちらが上かといえば人間関係ですよ。

以上3節をご紹介しました。日頃、自分が先代や諸先輩より指南もらっていることと、本田宗一郎さんが考えておられることが一緒に、どのようなことも不変の道理のようなものがあると改めて感じました。

「進歩向上を目指す行動に関しての失敗は大目に見る。」

「どのような行動にも責任が伴う。よって過ちの理由を絶対に他に求めてはダメだ。」

「学問や仕事がいくら出来ようと、人間的な評価が悪かったらダメですよ。」

この3つの言葉を自分に当てはめて考え、又社員諸君も各々よく考えてもらい、社会に誇れる会社に皆でしていってほしいと考えています。